

●2018(平成30)年4月24日(火)

産経新聞に下記の記事が掲載されました。



## 麻生会長と首相の契り堅い

### 自民党総裁選 2018 番頭に聞く

今の日本に必要なのは政治の安定と継続性です。衆院小選挙区制は二大政党による政権交代が前提でしたが、実際は、野党が複数に分裂し、当初の予想と状況が違ってしまいました。ならばどうするのか。自民党がしっかりする以外にないという結論になりました。

自民党内で互いが政策を堂々と論議し、切磋琢磨し合う政策集団、政治体制を作り上げる。その目的のため、麻生派は昨年7月、山東派(番町政策研究所)などと合流し、新たに「志公会」を立ち上げました。こうした体制が、今後の日本政治の大きな力になり、国家国民のためになる確信があります。

その上で、麻生派はど真ん中で政権を支えていく自負と気概を持って総裁選に対応するのが基本的な考えです。安倍晋三首相(党総裁)が総裁選に出馬する意向を表明後、派として正式に安倍首相の3選支持を打ち出すつもりです。

麻生太郎会長が財務相として所管する財務省は、学校法人「森友学園」の国有地売却に伴う財務省の決裁文書改竄問題などで厳しい批判を受けています。改竄は大変ゆゆしき問題で真相究明が進んでいますが、それと別に、この問題を真摯に受け止め、愚直といわれても丁寧の説明し、責任を果たしていく。森羅万象の諸問題全てに責任を持つのが政府だからです。

麻生会長と安倍首相の絆は半端じゃありません。平成24年9月の総裁選で、麻生会長は安倍さんを支え、2人でよく相談して総裁選を戦い、同年12月の衆院選で政権を奪還しました。政権のスタートから話し合ってきただけあり、2人の気持ちが離れることはあり得ません。麻生会長には、安倍政権を世に送り出した責任がある。安倍首相には麻生会長に支えてもらった恩義もあるでしょう。2人の契りは堅いと思います。

総裁選の戦い方は何も決めていません。総裁選に立候補する可能性が指摘されている人は皆、要職を務め、豊富な政治経験と見識を持っています。

麻生派に限らず、日本のかじ取りを任せられる政治家を育てることは派閥に求められる大きな仕事です。総裁選を経験する中で各派が中堅の育成を進め、その取り組みからおのずと総裁に立候補したい人が出てくる。そういう資質を持った政治家を育てることが派閥の役割でもあります。

## キングメーカーを狙うことはありません

麻生会長が再び総裁選に出ることはありません。政界のキングメーカーを狙うなどと週刊誌に書かれましたが、そんな思いはありません。麻生会長は今、与えられた自分の立場で全力を尽くしています。

8年の初当選時から22年間、麻生会長と過ごしてきましたが、麻生会長は全然変わらない。いつも元気いっぱい、明るく、プラス思考です。派では麻生会長が大きな方針を示し、それを具体化するのが私の仕事です。決して前に出ず、いつも謙虚に、そして必ず結果を出す。軍師は麻生会長で、私は番頭かな。

「ポスト麻生」？麻生会長に代わる人はいないでしょう。考えたこともない。一方、志公会に合流した各派にはそれぞれ独自の文化や性格がある。昨年の合流後、衆院選や所属議員の家族同士の交流などを通じ相互理解は深まっています。一体感を出す努力を続ける中で、次世代に向けた新たな指導者を育てていくこともわれわれの義務と考えています。

志公会の源流である「大勇会」「為公会」は麻生会長の魅力にひかれて派に参加した人が多い。これからも麻生会長に魅力を感じ、志公会に入りたい人がいれば、拒むものではありません。一緒に勉強していければと思っています。

(小川真由美)

松本純・国対委員長代理

昭和25年生まれ。薬局経営、横浜市議を経て、平成8年の衆院選で神奈川1区から出馬し初当選。総務政務官、内閣官房副長官、党政調会長代理などを経て28年8月、国家公安委員長兼防災担当相で初入閣した。29年8月から党国対委員長代理。麻生派（志公会）所属。